MULTICULTURAL CENTER TOKYO

Annual Report 2008～2009

2008 年度事業報告書
2009 年度事業計画書

特定非営利活動法人 多文化共生センター東京
MULTICULTURAL CENTER TOKYO

総括

多文化共生センター東京は、4 月荒川区三河島の旧真土小学校で 2 年目を迎えた。外国にルーツを持つ子どもたちのための教育事業は大きく事業が拡大した。「たぶんかフリースクール」の昼クラスは学齢超過のこどもたちの学び場、居場所の場として作られているが、今年度は年間通して教育相談が多く、フリースクールへも常時生徒が入学した。生徒は相変わらず中国出身者が多いが、フィリピン、タイ、ミャンマー、韓国、ベトナム、ネパール出身と非漢字圏の生徒も増え、多国籍化がすすんだ。漢字圏と非漢字圏の子どもたちの授業は別々にした方が教えやすく、学びやすい面があるが、クラス編成に限界があり、一緒に学ぶ時期もあった。ただ、一緒に学ぶことで、思いのほかいろいろな国の子どもたちが仲良くなり、互いに教え合い、励まし合う姿も多く見られた。特に受験が終わって、3 月に実施した「ユース★フェスタ in 日暮里」に向けての準備・練習では、さまざまな国籍の子どもたち同士の自然発生的な「多文化共生」的レッスンが始まった。ことばを超えた交流が、日本語を使う意欲にも反映した。さらに非漢字圏の子どもたちのコミュニケーション力や、リズム感が輝いた。連日ダンスやうたのレッスンが教室で繰り広げられた。

今年度、「たぶんかフリースクール」の生徒数は延べ 91 名と過去最高となり、生徒の多言語化も進んだが、生徒にはより細かいケアの体制をつくることができた。そしてこの体制をつくるにあたっては、企業による支援なくしてはあり得なかった。ギャップ財団からはフリースクール担任制の導入及び担任の常勤化に助成を頂き、秋以降 3 人の担任により、高校進学に向けたきめの細かいサポートができた。日本興和損害保険株式会社「日本興和おもいやりクラブ」からはバイリンガルスタッフ 1 名の増員に対して助成を頂き、中国語、韓国語、日本語での相談体制が充実した。インテグリス社「社会貢献プログラム」からは、一部 1 教室 2 講師体制、講師間の情報交換のためのミーティングや勉強会の開催に対して助成を頂いた。また、家と教室との往復のみの日常からくるストレスを少しでも解消しようと開催したカラオケ大会、スポーツ大会にはギャップ財団から支援を頂き、貸し切りバスでの遠足にはインテグリス社「社会貢献プログラム」から支援をいただいた。さらに日暮里駅前広場で盛大に行われた「ユース★フェスタ in 日暮里」では、UBS グループに協賛頂き、子どもたち自身が表現活動によって自信をもてるようにと、うたやダンスの練習で専門の先生をつけてレッスンを受けることができた。

こうした支援を得て私たちが理解したことは、子どもたちがのびのびと学習できるには、学習に適した場が必要であり、その場こそが「学校」であるという自明の理であった。3 年前より、荒川区教育委員会から提供いただいている廃校となった小学校の 3 教室は子どもたちにすてきな環境をもたらした。学びの場が学校の教室になったということの意義は大きく、以前の狭い 2DK の教室ととは比べものにならないほど日本語及び教科の集中力が持続し、理解度も深まった。また、生徒たちが教室の外へ出てさまざまな活動ができたことが、ともすればストレスでいらいらがつのり、けんかにも発展しかねない子どもたちの精神の安定に繋がった。さらに、うたやダンスといった表現活動は、子どもたちに様々な意欲をもたらした。

進路ガイダンスは、例年通り年 2 回実施できた。年々参加する保護者、生徒数が増えている。来年度はせめて東京 23 区と多摩地区の 2 カ所での開催を模索する必要がある。

調査活動については、昨年に引き続き「東京都の外国籍生徒の教育実態に関する調査報告書」を作成、西北ロータリークラブより印刷費の援助をいただいた。継続的にデータを作成することで、東京都の外国籍の子どもたちの実態が見え、行政のなすべき課題も明確になりつつある。

外国人の家族と子育て支援事業については、必要とされている事業は様々あるが、新しい事業を展開していくには様々な困難があった。「外国人の親のための日本語クラス」は当初の懸念通り、学習者の学習目的、希望する時間帯に開きがあり、固定した時間のみの開設では生徒が集まりにくく、学習の継続も難しかった。また、働きながら日本語を学べる就業体験の場づくりへと展開していくという試みも、学習者の求めるような就業の場をいかに作っていくか目途が立たなかった。今後は活動を土曜日に移し、ボランティアベースの支援に変更し、個々の希望に添った日本語支援として活動を続ける予定である。

また、人材育成事業では依頼傾向が大幅に変化し、「災害時の外国人支援及び通訳研修」の依頼がトップとなり、全国各地から依頼が続いている。次に「年少者の日本語教育」に関連した人材育成の依頼が増えた。また「たぶんかフリースクール」の見学、教材紹介依頼も増えた。各地域でのボランティアベースの子ども支援団体等からも「たぶんかフリースクール」が注目される存在になりつつある。

情報提供事業は昨年同様ボランティアベースでの提供が定着するとともに、ニュースレターをはじめ、メールマガジンなどの内容も充実し、様々な方から好評を頂いている。

全体的な活動をみると、事業内容は「外国にルーツを持つ子どもたちのための教育事業」がさらに拡大化した。同時に、企業との協働によりフリースクールの担任制や多言語による教育相談対応スタッフ、ミーティングや勉強会による講師間のコミュニケーション強化など、教育事業への体制基盤整備も進んだ。しかし、もう一本の事業の柱へと期待した新規事業「外国人親のための日本語スキルアッププログラム」は、学習者が望むような新たな就業につながる見通しが立たず、外国人の家族と子育て支援事業はもう一本の柱としての事業にはなり得なかった。今後は、「たぶんかフリースクール」を他の地域でも展開するなど、ニーズの高い外国にルーツを持つ子どもたちのための教育事業を中心とした活動へと展開していきたい。

2008年度事業報告

外国にルーツを持つ子どもたちのための教育事業

■たぶんかフリースクール

日本の中学校に入れず、学ぶ場や居場所のない子どもたち（学齢超過児と中学卒業者）や来日期間が浅く日本語の初期指導が必要な子どもたちに対して、毎日通えて日本語と教科を勉強できる学びの場と居場所を提供し、最終的には高校進学につなげることを目的とし実施した。

たぶんかフリースクール授業風景

１．　開催期間：2008 年 4 月～2009 年 3 月

２．　生徒数　：91 名（小学 5 年～）高校進学者数 33 名

生徒居住地、東京都 23 区 82 名、市部 2 名、埼玉県 4 名、千葉県 2 名、神奈川県 1 名

３．　内容

１）　子どもたちのための日本語指導と教科指導・高校進学のためのケア

「昼クラス」:　13:00～16:20（8 月は昼･夜合同）

「夜クラス」:　18:00～20:10

大人向けの日本語でなく小学校高学年以上の子どもに対象に、読み書き、読解力・思考力、高校入試を視野に入れた授業を行っている。

4 月新入生と保護者を迎え、中国語圏の保護者会と非漢字圏の保護者会をそれぞれ開いた。また、中国朝鮮族の留学生（日本の大学で臨床心理学を学び、異文化適応についての研究を主にしている）をスタッフとして迎え入れた。さらに講師とのミーティングの回数を増やし、勉強会も自主的に開かれ、講師間での情報交換、生徒に対しての共通認識、教材研究や、先生方の生徒指導についての不安や、悩み等についての互いに助け合い、励まし合う関係ができた。

8 月の夏季集中講座では去年と同様、「たぶんかフリースクール」に所属する生徒以外に、日本語学校や昼間の中学 3 年生も参加した。

8 月からは昨年以上に新たに来日した生徒の入学が相次いだ。12 月からは高校入試に向けて、保護者との三者面談の実施、それぞれの生徒が必要な教科、作文、面接に対応、学校訪問を含め、担任を中心に、講師の先生方の協力も得て、昨年にも増して、生徒一人ひとりに

対して、きめ細かいフォロー体制で高校受験を迎えることができた。

夜クラスは、荒川区におけるハートフル日本語適応指導事業（補充学習指導）が週 3 日のサポートということで、中学 3 年生だけは英語、数学の教科指導を含め週 4 日とし、小学生及び中学 1、2 年生は日本語のみの週 3 日の学習体制に変更した。しかし残念ながら、荒川区のハートフル日本語適応指導事業（補充学習指導）は、この事業について各方面からの認識が深まらず、今年度の適用生徒は 3 人であった。

２）　高校進学サポート

学校見学の引率、面接の練習など生徒のニーズに合わせた個別の高校進学のサポートは担任 3 名を中心に精力的に行った。特に志望校を決めるまでの話し合い、打ち合わせがより丁寧に対応でき、子どもたちの不安や動揺にも前年度より素早い対応をとることができた。また、受験に近づくにつれ、保護者への連絡、中学の担任や志望校の先生方との連絡も緊密に行われた。

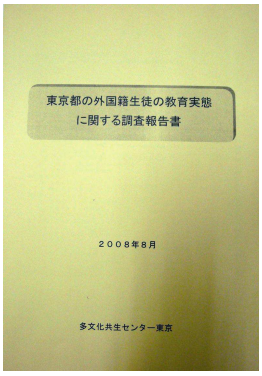
■ 教育相談

主に電話およびセンターでの面接による相談である。今年度はセンターに来ての相談が多かった。内容は日本の小中高への編入に関する相談及び日本語、学習指導についての相談が多い。高校進学に関しての相談が多いが、中学側が編入前に多少でも先に日本語を学んで来てほしいという要望が 3 件あり、先に「たぶんかフリースクール」で日本語を学んでから登校を始めるケースが出て来た。また、相談件数が増えている現状は変わらず、センターでは中国語の教育相談については 2 人体制をとった。また在留資格については、養子縁組や難民申請中など、入学審査時に予め相談を要する件数が 3 件あった。

相談件数：約 140 件と昨年に比べ大幅に増えた。

■ 調査活動

2007・2008 年東京都「学校基本調査報告」及び「公立学校統計調査報告書【学校調査編】」及び進路ガイダンス参加者からのアンケートを元に東京都外国籍生徒実態を分析。さらに初めて「たぶんかフリースクール」について報告を掲載した。2008 年 8 月発行。報告書の印刷費については、西北ロータリークラブから援助をいただき、同クラブで報告もさせていただいた。



■ 日本語を母語としない親子のための高校進学ガイダンス

多文化共生センター東京、カトリック東京国際センター、多文化共生教育研究会、世界の子ども達と手をつなぐ学生の会の NPO、ボランティア団体など 4 団体による実行委員会により、7 月と 10 月の計 2 回、高校進学ガイダンス」を開催した。外国出身者中学生とその親に対して、学校の制度や高校進学についての具体的な情報を提供すると同時に、ボランティアや NPO による学習支援等につなげガイダンス後のフォローも行った。春期が 229 名、秋期が 173 名、2 回合計で 402 名（182 家族）の参加があった。特に秋期の参加者は大幅に増えた。

その他、新宿区でも単独でガイダンスを実施しており、当センターも運営に協力した。

先輩の体験談で話す
フリースクール卒業生

春期ガイダンスの概要

１）日時：7 月 6 日（日）13:00—16：30
２）場所：JICA 地球ひろば
３）総参加者（スタッフ／報道陣を除く）：229 名
　対象生徒 83 名、親 91 名、付き添い・児童 42 名・見学 13 名
４）スタッフ：約 70 名（体験談高校生 3 名、通訳 18 名／講師 15 名／その他受付など 35 名程度）

秋期ガイダンスの概要

１）日時：10 月 5 日（日)）13:00～16：30
２）場所：JICA 地球ひろば
３）総参加者（スタッフ／報道陣を除く）：173 名
　対象生徒 78 名、親 70 名、付き添い・児童・乳幼児 16 名・見学者 9 名
４）スタッフ：70 名（体験談高校生 3 名、通訳 18 名／講師 15 名／その他受付など 35 名程度）

■ 子どもプロジェクト（ボランティアによる日本語と教科の学習支援と居場所づくり）

ボランティアベースでの日本語と教科の学習支援を週 1 回、基本的には個別対応で行った。
日時：毎週土曜日－14：30～16：30
参加人数：約 40 人
ボランティア人数：約 20 人

■ アクティビティ

2008 年度は企業からの助成などもあり、フリースクール講師・ボランティアの協力も得て多くの校外学習を実施することができた。

①遠足：“東京下町を歩く”　（2008 年 5 月 24 日）
ボランティア中心で企画し、浅草雷門、本所防災館などを訪れた。

②遠足:渡良瀬川遊水地　（2008 年 6 月 7 日）
広大な遊水地で、サイクリングや野球などを楽しんだ他、足尾銅山跡の歴史に触れた。

③盆踊り：荒川総合スポーツセンター（2008 年 9 月 6 日）
荒川区国際交流協会主催のイベントに参加した。

④遠足：佐原～銚子（2008 年 10 月 26 日）
インテグリス社様の後援で企画。伊能忠敬記念館、地球の見える丘展望台、銚子の海などを訪れた。

⑤校外学習：国立西洋美術館（2008 年 11 月 5 日）
同美術館のボランティア説明員のご協力で、日本語の説明を聞いたり、訪問後に手紙を書くなど、フリースクールの日本語授業の一環として実施した。

⑥スポーツ大会：荒川第四中学体育館（2008 年 11 月 29 日）
バスケットボールや、バレーボール、バドミントン、縄跳びなどスポーツを楽しんだ。ギャップジャパン株式会社様有志より、スポーツ用具を提供いただいた。

⑦カラオケ大会（2008 年 12 月 6 日）
ギャップ財団様後援により実施、それぞれ各国語の歌を歌うなど大いに盛り上がった。

評価と課題

①生徒募集について

4 月スタート時の生徒については、1 月～3 月に来日して待機状態であった子どもたちの受け入れから始まった。教育相談は常時問い合わせがあり、入学者も随時受け入れる状況にある。その結果、生徒の日本語、各教科もレベル差が大きい。生徒の個々のレベルにあった学習を保障するため、今年度は様々な企業から援助が得られ、よりきめ細かいケア体制ができた。しかし昨年以上に昼クラスでは待機生徒が出た。現在の 4 教室では限界に来ている。また、夜クラスの初期指導修了者を対象とした荒川区のハートフル日本語適応指導事業（補充学習指導）は、新年度に向けて荒川区教育委員会との話し合いに進展が見られた。学校や子どもの実態にあった協働事業へ向けて受け入れ体制の充実が期待される。

②「たぶんかフリースクール」の規模の拡大にともなって

生徒増に伴い体制強化の 1 年となった。生徒一人ひとりの学習進度、出欠席等の把握、高校進路指導体制として担任制を導入し、3 人の担任により秋から高校受験にかけてきめの細かいサポートが出来た。また、生徒の随時入学に伴い、カリキュラムの変更、クラス編成の変更等の事務作業が増えたことで、従来週 2 日勤務の非常勤スタッフの勤務を 3 日に増やした。学齢超過児の日本語や教科の学習する場がないため、「たぶんかフリースクール」にはさらに生徒が増える傾向があり、現在の教室では限界もあり、今後は他地域での教室を増やす必要に迫られている。

③教育相談・入学相談

教育相談、入学相談を経て「たぶんかフリースクール」の生徒になる比率は年々高くなっているが、通学時間が 1 時間半を超えるケースもあり、加えて交通費の負担が大きく、通学を断念せざるを得ないケースも増えている。その意味でも上述した通り他地域での教室を増やす必要がある。また、生徒及び保護者共に日本ができないため、中学側の受け入れもとまどいが多くなっており、中学編入前に当センターへ初期指導を希望する学校が増えてきている。中学と教育委員会と当センターとの連携はより必要になってきている。

④高校進学について

今年度の高校受験については、都立推薦 3 名、都立国際高校在京外国人枠 4 名、都立一次試験 16 名、都立 2 年編入 1 名、埼玉県立 3 名、千葉県立 2 名、神奈川県立 1 名、私立高校 3 名の合計 33 名が高校進学を果たした。他に、もう一年日本語などを学習してから進学したいとの理由で今年度は受験を見送った生徒も 6 名いる。

高校進学を果たした今年度の生徒の在日期間は半年～1 年半、「たぶんかフリースクール」での在籍は 4 ヶ月～1 年 6 ヶ月と極端に短く、ある意味では高校進学について驚異的な成果ともいえる。当然高校入学当初、子どもたちの学習言語の習得はまだ厳しく、入学した生徒も、受け入れる学校側の不安も大きい。特に国語（古典）、社会等の単位取得は課題となる。しかし、都立高校の現状でいえば、定時制高校では取り出し授業による日本語サポートを積極的に推進している学校が見られるが、全日制についていえば、日本語のサポートを念頭において、こうした生徒を受

け入れる体制はまだまだ少ない。日本語のサポートについては長短期の差は大きいが、短期間で学習に追いつくためには高校側に対して取り出し授業への理解を求めていくことも必要となってきている。

今年度は、学齢超過の子どもたちが多く通う東京の夜間中学の一部で、7 月段階に入学待機状態となった。学校に通えず「たぶんかフリースクール」を紹介され、「たぶんかフリースクール」だけが学び場となった生徒が増えた。都立の入試は、東京都の中学に通っている生徒を対象とした入試体制のため、昼夜ともに正規の中学からはみ出した「たぶんかフリースクール」」の子どもたちの高校進学ケアは必然的に講師達の労働過重となって反映している。今後も外国にルーツを持つ中学及び学齢超過の生徒は増加しつづける傾向にあり、夜間中学の入学待機状態がさらに加速している状況を踏まえ、行政がこうした子どもたちに対して、高校進学に向けた制度をつくる時期としては、もはや待ったなしの状態となっている。

⑤こころのケアと教材の充実に向けて

昼クラスの生徒は「たぶんかフリースクール」としての学習時間が 3 時間と短い。しかし家では保護者が子どもとふれあう時間も少なく、学習については子ども自身の自主性を過度に求められ、ストレスを抱えることもある。また、もてあました時間の解消にパソコン依存が始まり、生活のペースが乱れるケースもある。夜のクラスは現役の小・中学生であるが、学校内での孤立、無視等、学校の教員や友人とのコミュニケーションがうまくいかず、昼間とはまた違うストレスを抱えている。今年度は日本語、朝鮮語、中国語ができ、臨床心理学を学ぶ新スタッフが週 2 日常駐することで、子どもや保護者の相談には応えやすくなった。

⑥日本語を母語としない親子のための高校進学ガイダンス

ガイダンスは毎年参加者が増加傾向にあり、今年も最高記録を更新した。出身国は多岐に渡るが、特にフィリピン出身者の増加が著しく、タガログ語通訳の増員の必要性を実感した。個別相談は高校教員に対応いただく他、ガイダンス後にＣＣＳやたぶんかフリースクールなどサポート団体に繋がるケースも増えている。他の近県と同様に東京においても、行政の支援を得てガイダンスのような情報提供・サポートをより充実させるべく、引き続き働きかけていきたい。

⑦子どもプロジェクト

ボランティア間の協力や子どもとの信頼関係も見られ、子どもにとっての「居場所」にもなっている。フリースクールの生徒はもちろん土曜のみ参加する子どもについても情報を共有してサポートを行っている。特に UBS グループの社員ボランティアを始め英語話者のボランティアが多く参加し、英検や都立国際高校の受験に即した学習支援ができ、大きな成果を上げることができた。また校外学習などのアクティビティも数多く実施でき、子どもたちが教室外で様々な交流・体験の機会を持てたことは精神面、友人関係など良い影響があった。尚、従来は中学生を対象としていたが、小学校低学年の子どもが増えてきている。今後は小学生以下の子どもと親が一緒に学べる親子の教室も、別枠で検討している。

外国人の家族と子育て支援事業（ファミリーサポート事業）

■外国人親への子育て支援ネットワーク（多文化子育てネット）

多文化子育てネットメーリングリストの運営

外国人親子に関わる支援者や当事者が、研修会やメーリングリストを通して多文化子育てに関する情報を共有するネットワークづくりのためのメーリングリストを運営。それぞれの会の活動報告、活動の中での相談、情報交換、ディスカッションなど、お互いのノウハウや情報を共有するコミュニケーションツールとなった。

参加者：71 名（保育分野教員・研究者・外国人 DV 被害者支援者、日本語等のボランティア、保健師、助産師、保育士、児相職員、当事者グループ、国際結婚当事者など）

■多言語生活相談窓口

外国人家族から結婚、離婚、子育てなど、生活上抱える問題に多言語で対応した。

対応言語：日本語・英語・中国語　相談体制：事務局スタッフ（協力：行政書士・弁護士）

相談者数：21 名　相談件数：24 件・通訳コーディネート 1 件

相談内容：

家　族 9：夫婦の問題・生活苦・養育費・児童扶養手当手続・親子関係不存在・児童館紹介等

入　管 8：資格変更・永住許可・子ども呼び寄せ・在留資格と帰化の説明・在留特別許可等

その他 7：精神科紹介・敷金返還トラブル・健康保険・労働トラブル・日本語教室等紹介等

■外国人親のための日本語スキルアッププログラム

外国人親（配偶者）を対象に、読み書きを中心とした日本語や、仕事に必要なスキルアップ機会の提供と、学んだ日本語を使いながら働ける場づくりを通して外国人親（配偶者）を仕事につなげ、日本の社会で活躍する人材を育成する。

「外国人の親のための日本語クラス」

春コース 4 月 15 日～7 月 25 日（フィリピン 5 人）

秋コース 9 月 16 日～ 12 月 12 日（フィリピン、タイ 3 人）

冬コース 2009 年 1 月 20 日～ 3 月 27 日（ミャンマー2 人）

内容：週 3 回・10:00～12:00

漢字の読み書きと、習った漢字を使っての作文、やさしい日本語でたくさん本を読む多読授業、丁寧な表現などの会話や文型の練習　　協力：NPO 法人日本語多読研究会

評価と課題

フリースクールの生徒増に伴い教育事業が大きく拡大する一方、子育て支援事業は縮小した。外国人親への子育て支援ネットワークでは、2005 年より年 2～3 回外国人の子育て支援に関する研修会を様々なテーマで開催して来たが、今年度は実施できなかった。しかし、福岡の NPO 主催の「多文化子育て支援者セミナー」や、葛飾区の「多文化子育てフェスタ」では協力出来た。メーリングリストは、DV や不就学の相談なども寄せられ、専門家を交えて情報交換の場となった。

生活相談は、今年度はフリースクールの保護者や親の日本語クラスの学習者からの相談が多かった。シングルマザーからの相談では、児童扶養手当など一人親家庭への行政サポートを受けていないことが分かり、区役所に同行して手続きを進めた。また、在留資格に関する長期的なケースも 2 件あり、1 件解決し、もう 1 件は継続中である。相談はボランティアでは対応できずスタッフに負担がかかるという課題が以前からあるが、電話相談についてはこれまでの相談活動で培った知識をいかして答えたり、子育てネット等で培ったネットワークをいかして地域の団体につなげた。また、現場の活動が増える中で、保護者などからの相談は、様々な機関に同行しなければならない複雑なケースも増えている。弁護士など専門家との連携を強めつつ、相談対応ができるスタッフを増やすことも課題である。

外国人親のための日本語スキルアッププログラムでは、昨年度から「外国人の親のための日本語クラス」を始めた。2008 年度の学習者は 10 人にとどまった。学習者は日本語を生活で覚えたが、読み書きができないことで仕事の選択の幅も広く、もっときちんと日本語ができるようになりたいという強い思いをもって参加する。ひらがな・カタカナからはじめ、最後には少し漢字も読み書きができるようになり、子どもに日本語の絵本の読み聞かせをしたり、幼稚園からの連絡帳に日本語で返事が書けるようになったなど実際の子育てに役だつものとなった。また、日本語を学習したことで自信がつき、介護ヘルパー養成講座を受講して現在ヘルパーとして働いている人もいる。しかし、仕事をしながら週 3 回、1 回 2 時間、日本語を継続して学習していくことは容易ではなく、仕事が忙しくなるなどして途中で辞めた人も多い。

この日本語スキルアッププログラムでは、ステップアップを目指して日本語を勉強しても実際の仕事にはつながりづらいので、働きながら日本語を学べる就業体験の場づくりへと展開していく予定であった。これまで、外国人支援団体や人材派遣会社、外国人介護士養成・派遣会社などと情報交換したが、就労にあたって求められる日本語のレベルと、実際の学習者の日本語レベルの差が大きく、就ける仕事の選択肢が限られてしまっている。介護以外である程度安定した就労の場を当センターがどのように作っていくのか、まだ目途がたっていない。

就労体験の場の目途が立たない中で、日本語学習を続けるのは難しく、次年度には「外国人の親のための日本語クラス」は打ち切りたい。しかし、仕事の都合で平日のクラスに参加を断念した方も、休日や夜にやって欲しいという声が多く、日本語を学習したいというニーズは大きい。そこで、これまでの有償で週 3 回きちんと日本語を勉強するという形ではなく、無償で土曜日にボランティアベースでの日本語教室という形で新たに実施したい。折しも、昨年度は土曜日の子どもの学習支援に小学校低学年の子どもが参加するようになり、保護者も送り迎えに来ている中、日本語を学びたいというニーズがあったが対応出来てこなかった。土曜日に親子で通える日本語教室を立ち上げることで、来られなくなった過去の学習者や修了者、フリースクールの親や、土曜日の学習支援に来ている小学校低学年の子どもや親なども参加でき、より多くの外国人親との交流により、ニーズを探っていきたい。

多文化共生のための人材育成事業

■ 講師派遣／研修受入

全国各地の NPO、国際交流協会、行政、大学等が行う研修に対して、講師の派遣を行った。

08 年度の講師派遣/研修受け入れ実績

＜教育関係＞

東京外国語大学	「外国籍生徒支援者からみた教育制度」
川崎市ふれあい館人権尊重学級	「外国につながるこどもの教育実践から‘多文化共生’を考える」
同歩会　帰国者とともに歩む会	帰国者支援事業「外国から来た子どもたちの現状」
(財)新宿文化国際交流財団	外国につながりのある生徒の高校進学状況
神奈川国際交流財団・KIF-me-net	外国につながる子どもの支援を考える
明星大学	たぶんかフリースクールで見えてきたこと
調布市立学校日本語指導室研修会	外国籍児童・生徒の実態と日本語指導の対策
浜松学院大学	外国人の子どもたちの教育の課題とその支援体制を考える
ピナット	東京に住む外国籍生徒の高校進学の現状と課題について
朝日カルチャーセンター	地域・年少者の日本語教育　4 回
(財)新宿文化国際交流財団	外国につながりのある生徒の高校進学状況
在日本大韓民国青年会東京地方本部	在日外国人から見える日本の社会「教育」
(特活)外国人の子どものための勉強会	外国人の日本語指導者研修「外国人の中学生の課題」

＜災害関係＞

西東京市	「災害時の外国人支援」
(財)山梨県国際交流協会	ボランティア通訳の基礎知識と通訳ロールプレイ
武蔵野市国際交流協会	外国人のための防災事業「災害ボランティア研修」
(財)茨城県国際交流協会	災害時語学サポーター研修「災害時の相談対応の実務」
印西市役所企画政策課	災害時外国人支援ボランティア養成講座（全 5 回中 3 回）
長野県企画部人権・男女共同参画課	災害時語学サポーター育成研修会（2 会場）
(財)豊田市国際交流協会	豊田市災害サポートボランティア養成講座
東京都国際交流委員会	「被災外国人支援の現状と課題～中越沖地震の経験から～」
船橋市・船橋市国際交流協会	災害時外国人支援サポーター養成講座（全 5 回）
三重県・(財)三重県国際交流協会	災害時の外国人支援について考える
栃木県国際交流協会	多文化共生社会のコミュニティ通訳セミナー第 4 回「外国人と災害」
(財)岩手県国際交流センター	防災講習と災害時通訳ボランティア研修
神奈川県県民部国際課	災害時の外国人支援ボランティア研修
(財)板橋区文化・国際交流財団	災害時外国人支援ボランティア講習会
東京都国際交流委員会	災害時における外国人支援と国際交流協会
東京都国際交流委員会	災害時の外国人支援リーダー養成研修会（全 3 回）
(財)徳島県国際交流協会	災害時通訳ボランティア研修会
柏市役所企画部国際交流室	翻訳・通訳ボランティア研修会（全 3 回）
(財)岐阜県国際交流センター	災害時通訳サポーター研修
東京都国際交流委員会	「災害時における外国人支援と地域国際交流協会の役割
(財)岐阜県国際交流センター	災害時通訳サポーター研修

＜家族・子育て関係＞

多文化子育てフェスタ in かつしか実行委	多文化子育てフェスタ in かつしか　シンポジウム&ワークショップ
(特非)女性エンパワーメントセンター福岡	多文化子育て支援者セミナー「多文化共生と子育て支援とは」

＜多文化共生関係＞

世田谷区砧総合支所地域振興課	学んで楽しむ身近な生活術「多文化理解とコミュニケーション術」
(財)鹿児島県国際交流協会	多文化共生ボランティア育成講座「日本で暮らす外国人の現状」
(特非)女性エンパワーメントセンター福岡	多文化共生と日本語支援ボランティア
栃木県小山城南高等学校	総合的な学習の時間「国際理解教育講演会」
八王子国際協会	国際ボランティアの基礎知識　～多文化共生とボランティア～
大田区教育委員会　おおた区民大学	さあ扉をひらいて～地域の国際化と多文化共生
鹿児島県国際交流協会	多文化共生ボランティア育成講座
江戸川総合人生大学	在住外国人との共生を考えるワークショップ全 2 回×2
明治大学	私の文化・あなたの文化違いちがいを考えよう　2 回
三重県白山中学校	修学旅行生徒とたぶんかフリースクール生徒との交流会
奥州市総合政策部まちづくり推進係	奥州市男女共同参画セミナー「多文化共生とジェンダー」

＜その他＞

横須賀市社会福祉協議会	企業のボランティア活動・社会貢献活動セミナー

■　多文化共生のためのボランティア講座

多文化共生センター東京の活動への参加を希望する方などを対象に、月に 1 回「多文化共生のためのボランティア講座」を実施した。計 12 回実施し 74 名の参加があった。具体的な内容としては、多様化する日本社会の現状や、在日外国人の傾向、多文化共生社会を考えるミニワークショップ、多文化共生センターの活動説明など。

■　研修事業

たぶんかフリースクール勉強会

講師を対象に、月に 1 回様々なテーマで勉強会を実施した。全 8 回延べ 63 人参加。

評価と課題

外部からの講演、研修、見学等の依頼は増加しており、連続講座などを含めると 60 回を超えた。フリースクール見学、教材紹介などが増え、年少者の日本語教育関連の講座も多かった。災害時の外国人支援に関する研修は昨年度から増加し、昨年度は災害時通訳ボランティア向けの研修が中心であったが、今年度は通訳という視点だけではなく、地域の外国人の状況を把握して必要な情報を提供するためにより実践的な講座を主催者と共に企画して実施することが出来た。災害時に外国人へ迅速な支援を行なうためには、日頃からいかに地域の多文化共生を推進していくかが重要となってくる。災害関連の研修により、地域の行政や住民、外国人当事者がつながり、地域の多文化共生を推進していくための足がかりとなれば意義がある。

今年度の課題であった自主セミナー、とりわけフリースクールの講師やボランティアが学べる機会づくりであるが、前述の通りフリースクールの講師を対象とした勉強会をインテグリス社からの助成金で月 1 回行なうことが出来た。一方、ボランティアが学べる機会については、土曜日の学習支援の希望生徒が増加し、ボランティアが不足することも多く、余裕がなくなっ

たことから勉強会は実施できなかった。引き続き次年度の課題としたい。

多文化共生に関する情報提供事業

1. **ニュースレター(みんぐる)**
   vol.24（春号）・vol.25（秋号）・vol.26（冬号）の3回発行（各800部）
2. **WEB/ブログ**
   多言語での情報提供、活動の報告などをブログなども活用しつつweb上で行う。ブログアクセス数約200件/日
3. **メルマガ(多文化NEWS from Tokyo)**
   外国人関係のニュースや、お勧め映画・本、イベント情報、団体の活動内容などを盛り込んだメルマガを配信（月1回配信・購読者：670名）
4. **メーリングリスト(多文化だより)**
   活動内容を報告する会員向けメルマガをＭＬ上に流しＭＬの活性化を図る。（月1回配信）
5. **多文化映像制作**
   卒業パーティー、「ユース★フェスタ in 日暮里」などを撮影し、記録した。

評価と課題

ボランティアの積極的な参加により、多様な媒体による情報提供を定期的に行なうことができた。ニュースレターは作業量が多く、年4回の発行予定が年3回の発行となったが、内容は団体の活動紹介にとどまらず、外国にルーツのある人によるエッセイや、エスニックコミュニティ、フリースクールの取材、統計を用いた読み物など充実してきている。全ルビ付きで、日本の多文化事情がわかるので、海外の会員からは日本語教材として活用して頂いている。

メルマガは読者数も増え、多文化共生関係のニュースやイベントなどを会員以外へも幅広く伝えることができた。スタッフ公募を掲載した際にもメルマガ読者からの応募があり、広報媒体として定着してきた。メーリングリストでの「多文化だより」も、センターの活動にかかわる様々な人の記事を掲載し、会員へ生の声としての活動報告を定期的に届けることが出来た。

映像制作はフリースクールの卒業パーティーや「ユース★フェスタ in 日暮里」当日、事前準備などの様子を撮影した。フェスタの事前準備の様子では、子どもたちがお互いを撮りあい、生き生きとした表情を見せているものとなっている。

広報活動は基本的にはボランティアベースで活動しているが、メンバーが少なくボランティア、スタッフ双方の負担が大きいのは引き続き課題である。現場の活動に関心があるボランティアが多く、広報への関心が薄い中、取材やインタビューなどを積極的に行っていく中でメンバー増加を目指したい。また、フリースクールの家族など、日本語を母語としない会員が増える中、多言語での情報提供が課題であったが、お便りの多言語化など実用的な情報提供にとどまった。今後は、活動内容など関連する内容の記事などから多言語化を図っていきたい。

その他の事業

■ ユース★フェスタ in 日暮里 ～多様なことは楽しいこと、素敵なこと！～

目的:教育制度や文化、言葉の壁などによって孤立し、自信を失いがちな外国にルーツを持つ子どもたちが主体となり、自分たちを表現することによって自信を取り戻し、積極的に社会参加していくこと、また当センターが地域社会とのつながりを作っていくことを目指す。

日時：2009 年 3 月 28 日（土）

場所：日暮里駅前イベントひろば　来場者：約 2,500 人

内容：■ステージ

都立竹台高校ブラスバンドとアジア文化研究部・早稲田大学サムルノリグループ「シナウイ」東京朝鮮第一初中級学校の舞踊、CCS の二胡、竹台高校ダンス＆バトン、デジタル DJ ユニット「ZERAGON」、たぶんかフリースクール活動紹介・ダンス・歌・ボイスパーカッション

■屋台

韓国トッポッキ・キムチチゲ、スリランカカレー、フィリピンアドボ、中国水餃子、ベトナム揚げ春巻き、ネパールカレー、タイラーメン、ポップコーン、綿菓子、フランクフルト等

■その他　NPO 法人 CANVAS によるアートワークショップ、チャリティ宝くじ

主催：「多様化する子どもたち達の架け橋プロジェクト」特別協賛：UBS グループ

評価と課題

昨年に続き 2 年目となるフェスタでは、今回は荒川区主催のイベントと一緒に実施し、場所も当センターのある旧真土小学校ではなく、日暮里駅前イベント広場で行なわれ、約 2,500 人の来場者で賑わう大きなイベントとなった。

今回のフェスタでは、司会、活動紹介、歌、ダンス、テコンドー、屋台など、たぶんかフリースクールの生徒や保護者が活躍した。本番を迎えるまで、毎日のようにダンス、歌、発表、屋台など準備を重ね、ダンスやボイストレーニングはプロにもご協力頂き、フリースクールの先生やボランティア、子どもたちなど、みんなで作ったフェスタとなった。普段は日本語が出来ないという側面だけが強調され、社会で評価されにくい子どもたちに、大きな自信を与えることが出来たと同時に、来場者へ多様な子どもたちのパワーを示したイベントとなった。

このフェスタは、UBS グループの「Building Bridges for Children 多様化する子どもたちの架け橋プロジェクト」の一環として、東京ボランティア市民活動センター、荒川ボランティアセンター、荒川区国際交流協会、地域の日本語教室や NPO など多くの方の協力によって実現した。当センターは広域支援が中心で地域とのつながりは薄かったが、地域に根を下ろした活

動ができたことで、今後地域での活動の幅に広がりができる可能性が大きくなった。

2008 年度収支報告

（自2008年4月1日～至2009年3月31日）

1、収入の部（円）

科目	予算額	決算額
1.会費･入会金収入		
会費･入会金収入	1,200,000	1,283,500
2.事業収入		
教育事業収入	8,400,000	10,785,900
子育て支援事業収入	1,155,000	438,120
人材育成事業収入	3,000,000	3,406,411
情報提供事業収入	600,000	581,190
その他事業収入	0	934,932
事業収入　計	13,155,000	16,146,553
3.補助金等収入		
民間助成金収入	600,000	600,000
4.寄付金収入		
寄付金収入	2,720,000	3,273,919
5.その他		
その他収入	0	52,518
当期収入合計	17,675,000	21,356,490
昨年度より繰り入れ	5,968,903	5,968,903
合計	23,643,903	27,325,393

2、支出の部（円）

科目	予算額	決算額
1. 事業費		
教育事業支出	9,650,000	12,756,846
子育て支援事業支出	1,160,000	703,865
人材育成事業支出	3,000,000	2,824,599
情報提供事業支出	840,000	507,153
その他事業支出	0	563,684
事業費　計	14,650,000	17,356,147
2.管理費		
給料　手当	1,500,000	1,470,000
法定福利費	720,000	675,278
通信運搬費	120,000	148,164
水道光熱費	250,000	249,314
旅費交通費	0	135,500
備品消耗品費	0	125,210
租税公課	120,000	130,300
支払手数料	0	3,860
管理　諸費	300,000	297,612
減価償却費	0	183,496
管理費　計	3,010,000	3,418,734
当期支出合計	17,660,000	20,774,881
当期収支差額	15,000	581,609
次期繰越収支差額	5,983,903	6,550,512

2008 年度「特定非営利活動にかかる事業」会計貸借対照表　2009 年 3 月 31 日現在

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
流動資産		流動負債	
（現金･貯金）		未払い金	451,339
現金	143,757	預かり金	88,887
普通貯金	5,375,453	流動負債　計	540,226
現金･普通貯金計	5,519,210	負債の部合計	540,226
（売上債権）		正味財産の部	
未　収　金	727,630	正味財産	6,550,512
売上債権　計	727,630	（うち当期正味財産増加額）	581,609
流動資産合計	6,246,840	正味財産　計	6,550,512
固定資産			
（有形固定資産）		正味財産の部　合計	6,550,512
建物附属設備	843,898		
有形固定資産計	843,898		
固定資産　合計	843,898		
資産の部合計	7,090,738	負債･正味財産の部合計	7,090,738

2008年度財産目録

2009年3月31日現在

特定非営利活動法人多文化共生センター東京

（単位：円）

科　　目	金　　額		
Ⅰ　資産の部			
1　流動資産			
現金預金			
現金	143,757		
普通貯金	5,375,453		
未収入金	0		
流　動　資　産　合　計		5,519,210	
2　固定資産			
有形固定資産			
建物附属設備	843,898		
固　定　資　産　合　計		843,898	
資　産　合　計			6,363,108
Ⅱ　負債の部			
1　流動負債			
未払い金	249,314		
預り金	88,887		
流　動　負　債　合　計		338,201	
2　固定負債			
固　定　負　債　合　計		0	
負　債　合　計			338,201
正　味　財　産			6,024,907

監査報告書

特定非営利活動法人多文化共生センター東京の 2008 年度決算について、監査の結果、事業は適性に実施され、収支計算書は一般に公正妥当と認められる会計原則に基づいて作成されていることを認めます。

2009 年 5 月　日

監事　　小林千春

2008 年度役員

代表理事	王　慧槿
専務理事	柴山　智帆
専務理事	飯田　秀夫
理事	李　炫澈
理事	鈴木　江理子
理事	関口　耕一郎
理事	田中　阿貴
理事	田村　太郎
理事	野原　直子
理事	原田　麻里子
理事	福田　和久
監事	小林　千春

2008 年度　団体、企業等からの助成/寄付/協力

■ギャップ財団様・ギャップジャパン株式会社様
「たぶんかフリースクール」にてキャリアデザイン教育を行なう担任制に対する助成
カラオケ大会、スポーツ大会への協賛並びに従業員のボランティア参加

■インテグリス社・社会貢献プログラム様
Give2Asia を通して「たぶんかフリースクール」への助成（「教員の増員と教員間のコミュニケーション強化」、「社会とのふれあいプログラム（社会見学とハイキング）」への助成

■UBS グループ様
「ユース★フェスタ」への特別協賛、運営協力
「たぶんかフリースクールを中心とした教育事業」への社員ボランティア参加

■日本興和損害保険（株）様
日本興和おもいやりプログラムより、たぶんかフリースクールへの母語（中国語）ができる半専従スタッフ増員に対する人件費助成

■㈱ボイスペディア様
多文化共生センター東京 web への広告掲載

■西北ロータリークラブ様
教育実態調査に対する助成

■子どもの人権連様
「日本語を母語としない親子のための進学ガイダンス」への助成

■東京都高等学校教職員組合様
「日本語を母語としない親子のための進学ガイダンス」への協賛

■NPO 法人アースデイマネー・アソシエーション様
寄付

■エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ株式会社様
「ＯＣＮドットフォン募金」

2009年度事業計画

外国にルーツを持つ子どもたちのための教育事業

■たぶんかフリースクール

目的

日本の中学校に入れず、学ぶ場や居場所のない子どもたち（学齢超過児と中学卒業者）や来日期間が浅く日本語の初期指導が必要な子どもたちに対して、毎日通えて日本語と教科を勉強できる学びの場と居場所を提供し、最終的には高校進学につなげることを目的とし、外国にルーツを持つ子どもたちが教育を受ける権利を享受できる環境の実現をめざす。

事業内容

１．開催期間：2008 年 4 月～2009 年 3 月（毎週 3～4 回　火から金）

２．内容

１）「昼クラス」（対象：主に学校に通えない子どもたち）

時間：週 4 回　　13:00～16:20

内容：日本語及び教科（国語、数学、英語、理科、社会）及び居場所の提供。

２）「夜クラス」

対象：小学校 5 年生～中学 3 年生

荒川区「ハートフル日本語適応指導事業（補充学習指導）」対象者を含む

時間：週 4 回　　18:00～20:10

内容：日本語・国語及び教科（英語・数学）及び受験サポート

２）「通信制代々木高校多文化共生コース」（新規）

外国にルーツのある子どもたちで、高校中退や母国で高校 1、2 年生を修了者を対象に、通信制高校での学習をサポートする。

事業目標

小学校高学年、中学生、学齢超過の子どもたちへの効果的な日本語及び教科学習のノウハウ、教材の蓄積と高校進学。クラス平均 6～8 人、年間 100 人程度の生徒に対して日本語のサポートを行う。また、生徒数の増加傾向により、教室の拡大も視野に入れる。

■教育・進学相談

目的　外国にルーツを持つ子どものための教育・進学相談を行う。

事業内容

1. **教育・進学相談**

センター及び進路ガイダンス実施時に、年間 100 件程度の相談を行い、外国にルーツを持つ親子へのサポートを行う。

■子どもプロジェクト

目的

以下の 2 つの活動を柱とし、子どもたちへの力づけ（エンパワメント）を行っていく。

事業内容

1．ボランティアによる学習支援　土曜日：14：30～16：30

ボランティアベースでの教科と日本語の学習支援を、週 1 回行う。基本的にはボランティア中心の運営で、マンツーマンによる指導を行う。

2．子どもたちの居場所づくり

学習以外でも、同じ状況の子ども同士が交流する居場所づくりを目指す。

事業目標

年間 30 人程度の子どもに対して、ボランティアによる教科支援と居場所づくりを行う。

■日本語を母語としない親子のための高校進学ガイダンス

目的

日本の教育事情にうとい日本語を母語としない親子のために日本の高校について、また進路・進学・教育制度全般について理解を深めてもらうことをめざす。

事業内容

東京都内で区部・市部に分け、多言語による逐次通訳の体制を組み、高校進学についての説明会と教育相談を年 3 回実施する。通訳は英・中・韓・ｽﾍﾟｲﾝ・ﾀｶﾞﾛｸﾞ・ﾀｲ語の 6 言語を予定。当センターの他、「カトリック東京国際センター」「多文化共生教育研究会」「世界の子どもと手をつなぐ学生の会」「武蔵野市国際交流協会」「ピナット」で実行委員会を構成し、うち 2 回の事務局を当センターが担う。

事業目標

合計 200 名の日本語を母語としない親子に対して、進路、教育制度についての情報を提供する。ガイダンス後、個別でのフォローを実行委員会の団体が行い、高校進学までのサポートを行う。

■教育に関する調査活動とデータ作り

目的

東京都の外国にルーツを持つ子どもたちに関する教育関係のデータを作り、子どもたちの実態を明らかにする。

事業内容

主に東京都の「学校基本調査報告」、「公立学校統計調査報告書【学校調査編】」及び「日本語を母語としない親子のための進路ガイダンス」時に協力をいただいた多言語アンケートの集計と分析を中心に資料を作成する。また、新たな試みとして高校進学についてのアンケート、面接調査を試みる。

その他の事業

■外国人の家族と子育て支援事業（ファミリーサポート事業）

目的

国際結婚等で来日する外国人親は日本語をきちんと学習する機会がほとんどなく、生活から日本語を覚えていく。しかし、読み書きが出来ない親が多く、学校のプリントが読めずに様々な困難に遭遇する。地域ともつながりが少なく、頼れる人もいない中、日本語が親よりも上手な子どもを頼りきってしまう。一方、日本生まれや低学年で来日した子どもは日本語が母語となることから、親子の間に言葉の壁ができ、思春期に差し掛かると言葉の壁からこころの壁も高くなりがちである。

そこで、外国出身の親と子ども双方が、地域住民と日本語を通して交流することで、孤立しがちな外国人親子が地域社会へ参画できるようにする。また、や親子日本語の参加者や、フリースクールの保護者を中心に、結婚・離婚・子育てなどの家族の問題に対してサポートを行う。

事業内容

１．親子日本語クラス　土曜日：13:00～15:00（文化庁委託事業）

対象：外国人親※とその子ども（乳幼児～小学生）

※子どものいない外国人配偶者や、「たぶんかフリースクール」生徒の保護者など、子どもは小学生以上の親も含む

内容：生活や子育てに必要な日本語をボランティアとともに基本は 1 対 1 で学ぶ。

２．子育て・生活相談

フリースクールの保護者や親子日本語クラスの参加者を中心に、子育てや子どもの教育について話し合ったり、相談できる居場場をつくり、結婚・離婚・子育てなどの家族の問題に対してサポートを行う。

事業目標

年間 15 人程度の外国人親 15 人と 10 人程度の子どもに対して、ボランティアによる日本語支援と居場所づくりを行なう。また、年間 30 件ほど外国人の家族の問題や子育てなどのサポートを行う。

■多文化共生のための人材育成事業

目的

多文化共生に関する研修への講師派遣、活動に関わるボランティアやフリースクール講師を対象とした研修、ボランティア講座等により、多文化共生社会を担う人材育成を行う。

事業内容

１．講師派遣

国際交流協会や行政などが行う多文化共生関連の研修に対して 50 件程度の講師の派遣を行う。

２．研修事業

「たぶんかフリースクール」講師や、当センターのボランティアを対象に研修事業を行う。

３．多文化共生のためのボランティア講座

多文化共生センター東京の活動やボランティア活動に関心のある方を対象に、月 1 回の講座を行う。内容は基礎的な知識などを中心に行う。

４．朝日カルチャー年少者の日本語教授法連続講座

学校や地域で日本語をサポートしている方を対象に、当センターの授業実績を基に、中学生以上の子どもたちの現状を概観し、効果的な教授法を学ぶ連続講座。フリースクールの講師陣によるワークショップを中心に行う。全 5 回の連続講座（年 2 回）

事業目標

年間 50 件の講師派遣を行う。ボランティア講座は年間で 100 名程度に対しての講座を行う。

■多文化共生に関する情報提供事業

目的

活動と理念に対しての認知を高め、多くの方に賛同・支援をいただくため、ニュースレター、ウェブ／メルマガなどの媒体を使用し、広報活動を行う。

事業内容

１．多言語情報提供

当センターで作成した多言語情報など、外国人にとって必要な情報を多言語で提供する。

２．ニュースレター(みんぐる)

当センターの活動報告を中心に、多文化共生に関するテーマの広報誌を発行する。(年 4 回)

３．WEB/ブログ

活動の報告、多言語での情報提供などをブログなども活用しつつ web 上で行う。

４．メルマガ(多文化 NEWS from Tokyo)

外国人関係ニュース、イベント、当センターの活動内容などをメルマガで配信（月 1 回）

５．メーリングリスト(多文化だより)

活動内容を報告する会員向けメルマガをＭＬ上に流しＭＬの活性化を図る。

事業目標

当センターの活動と共に日本で暮らす外国人の現状や多文化共生への関心を社会に広める。

2009年度予算

2009年度　特定非営利活動にかかる事業会計収支予算書

2009年　4月　1日から　2010年　3月　31日まで

特定非営利活動法人多文化共生センター東京

（単位：円）

科　目	金額		
Ⅰ　収入の部			
1　会費・入会金収入			
会費収入	1,300,000	1,300,000	
2　事業収入			
外国にルーツを持つ子どもたちのための教育事業	11,000,000		
生活相談等による外国人の家族と子育て支援事業	100,000		
多文化共生のための人材育成事業	3,000,000		
多文化共生に関する情報提供事業	600,000		
		14,700,000	
3　補助金等収入			
民間助成金収入	1,400,000	1,400,000	
4　寄附金収入			
一般寄付金	3,700,000	3,700,000	
当期収入合計			21,100,000
前期繰越額			6,550,512
収　入　合　計			27,650,512
Ⅱ　支出の部			
1　事業費			
外国にルーツを持つ子どもたちのための教育事業	12,500,000		
生活相談等による外国人の家族と子育て支援事業	1,400,000		
多文化共生のための人材育成事業	3,000,000		
多文化共生に関する情報提供事業	200,000		
		17,100,000	
2　管理費			
事務局給料手当	1,800,000		
法廷福利費	900,000		
通信運搬費	150,000		
光熱水費	250,000		
旅費交通費	150,000		
備品消耗品費	150,000		
租税公課	150,000		
減価償却費	180,000		
その他管理費	270,000		
		4,000,000	
当期支出合計			21,100,000
当期収支差額			0
次期繰越収支差額			6,550,512

2009 年度役員

代表理事	王　慧槿
専務理事	柴山　智帆
専務理事	飯田　秀夫
理事	李　炫澈
理事	鈴木　江理子
理事	田中　阿貴
理事	田村　太郎
理事	原田　麻里子
理事	福田　和久
理事	山田　尚子
理事	枦木　典子
理事	松尾　沢子
理事	風間　晃
監事	小林　千春